

平成29年度 リスク評価(一次)評価Ⅰで用いた人健康影響のデータ

(平成30年3月22日)

優先評価 化学物質 の番号	名 称	分解性	有害性 クラス	有害性項目ごとの有害性クラス				一般毒性					生殖発生毒性					変異原性						発がん性		備考		
				一般毒性	生殖発生 毒性	変異原性	発がん性	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験期間 によるUF (90日未満6 1年未満2)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	影響の重大性 に係るUF (エキスパート ジャッジ)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験の質 によるUF (1世代 試験は10)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	①Ames試験 (復帰突然 変異試験)	②in vitro ほ乳類染色体 異常試験	③その他 のin vitro 試験	④in vivo 小核試験	⑤その他 のin vivo 試験		備考	発がん性 分類
3	n-ヘキサン	良分解性	4		4												0.26	旧二監(化管 法)								EPA:1(2005)		化管 由来
5	イソブレン	難分解性	2				2																			産衛学会:2B IARC:2B EU:2 NTP:R		化管 由来
6	クロロメタン (別名塩化メチル)	難分解性	2	4		2	2				0.4	旧二監(化管 法)												化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EPA:D(1986)・ CBD(1996) EU:3		化管 由来	
8	クロロホルム	難分解性	2			外	2												(-)	(-)					産衛学会:2B IARC:2B EPA:B2(1986)・ L(1999)・NL(1999) EU:3 NTP:R			
10	クロロエタン	難分解性	2	外		2	2				2.7	旧二監(化管 法)												化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EU:3		化管 由来	
11	1, 2-ジクロロエタン	難分解性	2			外	2												弱LY(+)	弱LY(+)					産衛学会:2B IARC:2B EPA:B2(1986) EU:2 NTP:R			
15	メチルアミン	難分解性	2			2																		化管法変異原性 クラス1			化管 由来	
16	ジメチルアミン	難分解性	2	2							0.0024	旧二監(化管 法)															化管 由来	
17	テトラメチルアンモニウム＝ヒドロキシド	良分解性	2	2		外		5	6	10		6000	0.00083						(-)	(-)								
18	ニトロメタン	難分解性	2				2																		産衛学会:2B IARC:2B NTP:R		化管 由来	
21	1, 2-エポキシブタン	良分解性	2	3			2				0.019	旧二監(化管 法)													産衛学会:2B IARC:2B EU:3		化管 由来	
22	エピクロロヒドリン	良分解性	2	3		2	2				0.0076	旧二監(化管 法)												化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2A IARC:2A EPA:B2(1986) EU:2 NTP:R		化管 由来	
23	エチレングリコールモノメチルエーテル	良分解性	2		3	2											0.031	旧二監(化管 法)						化管法変異原性 クラス1			化管 由来	
24	2-(1-メチルエトキシ)エタノール	難分解性	2	2	4	外		30	6	10		6000	0.005		125	10		1000	0.125		(-)	(-)						
26	アセトアルデヒド	良分解性	2			2	2																	化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:2B EPA:B2(1986) EU:3 NTP:R		化管 由来	
28	酢酸ビニル	良分解性	2	4		2	2				0.2	旧二監(化管 法)												化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:2B		化管 由来	
31	アクリル酸メチル	良分解性	2			2																		化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EPA:D(1986)		化管 由来	

優先評価 化学物質 の番号	名 称	分解性	有害性 クラス	有害性項目ごとの有害性クラス				一般毒性					生殖発生毒性					変異原性						発がん性			備考	
				一般毒性	生殖発生 毒性	変異原性	発がん性	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験期間 によるUF (90日未満6 1年未満2)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	影響の重大性 (エキスパート ジャッジ)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験の質 によるUF (1世代 試験は10)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	①Ames試験 (復帰突然 変異試験)	②in vitro ほ乳類染色体 異常試験	③その他 のin vitro 試験	④in vivo 小核試験	⑤その他 のin vivo 試験	備考		発がん性 分類
32	アクリル酸エチル	良分解性	2			2	2																		化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:2B		化管法 由来
34	アクリルアミド	良分解性	2	3	3	2	2				0.005	旧二監(化管 法)					0.015	旧二監(化管 法)							化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2A IARC:2A EPA:L(2005) EU:2 NTP:R		化管法 由来
35	メタクリル酸	良分解性	2	2							0.00025	旧二監(化管 法)																化管法 由来
36	エチレンジアミン四酢酸	難分解性	2	4		2					0.08	旧二監(化管 法)													化管法変異原性 クラス1			化管法 由来
37	ニトリロ三酢酸	難分解性	2	4			2				0.08	旧二監(化管 法)														IARC:2B NTP:R		化管法 由来
38	アセトニトリル	良分解性	2			2																		化管法変異原性 クラス1	EPA:D(1986)・ CBD(1996)		化管法 由来	
40	チオ尿素	難分解性	2		3	2	2										0.035	旧二監(化管 法)						化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:3 EU:3 NTP:R		化管法 由来	
43	ヘキサメチレン＝ジイソシアネート	良分解性	2	2							0.00004	旧二監(化管 法)														IARC:3		化管法 由来
46	トルエン	良分解性	3	3	3	外		0.0097(RfD)			1	0.0097	EPA水	12	10	1	1000	0.0012	EURAR	陰性	陰性	MLA陰 性、小核 陰性	陰性	CA陰性	EURAR、IRIS	IARC:3 ACGIH:A4 EPA:1(2005)		化管法 由来
47	スチレン	良分解性	2			2	2																	化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:2B NTP:R		化管法 由来	
48	イソプロベニルベンゼン (別名 α-メチルスチレン)	難分解性	2		4	2	2						200	1	10	1000	0.2	厚生省(既存 品類)						化管法変異原性 クラス1	IARC:2B		化管法 由来	
49	1, 2, 4-トリメチルベンゼン	難分解性	3	3	4	外		16.3	1	6	1	600	0.03	吸入	274	1	10	1000	0.274	環境リスク評 価		陰性	陰性		陽性(インジケ ーター試験)	環境リスク評価、GHS、 厚生省(既存品類)		
50	エチルベンゼン	良分解性	2				2																		産衛学会:2B IARC:2B EPA:D(1986)		化管法 由来	
51	ベンジル＝クロリド (別名塩化ベンジル)	良分解性	2			2	2																	化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2A IARC:2A EPA:B2(1986) EU:2		化管法 由来	
52	o-ジクロロベンゼン	難分解性	2	4		2					0.24	旧二監(化管 法)												化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EPA:D(1986)		化管法 由来	
53	p-ジクロロベンゼン	難分解性	2	3	4	2	2				0.03	旧二監(化管 法)	250	1	10	1000	0.25	環境省、化学 物質の環境リ スク評価						化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:2B EU:3 NTP:R		化管法 由来	
55	m-フェニレンジアミン	難分解性	2	2							0.0004	旧二監(化管 法)														IARC:3		化管法 由来
56	o-フェニレンジアミン	難分解性	2	2		2	2				0.0004	旧二監(化管 法)												化管法変異原性 クラス1	EU:3		化管法 由来	
58	o-クロロアニリン	良分解性	2			2																		化管法変異原性 クラス1			化管法 由来	
59	ニトロベンゼン	良分解性	2	3	3	外	2				0.02	旧二監(化管 法)					0.0075	化管法由来	(-)	(-)				有害性評価重 (2008)	産衛学会:2B IARC:2B EPA:L(2005) EU:3 NTP:R		化管法 由来	

優先評価 化学物質 の番号	名 称	分解性	有害性 クラス	有害性項目ごとの有害性クラス				一般毒性					生殖発生毒性					変異原性						発がん性			備考			
				一般毒性	生殖発生 毒性	変異原性	発がん性	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験期間 によるUF (90日未満6 1年未満2)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	影響の重大性 に係るUF (エキスパート ジャッジ)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験の質 によるUF (1世代 試験は10)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	①Ames試験 (復帰突然 変異試験)	②in vitro ほ乳類染色体 異常試験	③その他 のin vitro 試験	④in vivo 小核試験	⑤その他 のin vivo 試験	備考		発がん性 分類	備考	
60	p-クロロニトロベンゼン	良分解性	2	2		2	2						0.0026	旧二監(化管 法)											化管法変異原性 クラスI	IARC: 3 EU: 3		化管法 由来		
62	フェノール	良分解性	2				2																		化管法変異原性 クラスI	IARC: 3 EPA: D(1986)・ I(1999)		化管法 由来		
65	ピロカテコール (別名カテコール)	良分解性	2				2	2																	化管法変異原性 クラスI	産衛学会: 2B IARC: 2B		化管法 由来		
66	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	良分解性	2	2	3			2					0.0024	旧二監(化管 法)					0.014	化管法由来						産衛学会: 2B IARC: 2B EPA: B2(1986) NTP: R		化管法 由来		
67	テレフタル酸ジメチル	良分解性	2				2																		化管法変異原性 クラスI			化管法 由来		
68	テレフタル酸	良分解性	2	2									0.000073	旧二監(化管 法)														化管法 由来		
69	1, 2, 4-ベンゼントリカルボン酸1, 2-無水物	良分解性	2	2									0.00016	旧二監(化管 法)														化管法 由来		
74	メチレンビス(4, 1-フェニレン)=ジイソシアネート	難分解性	2	2			4	2					0.000031	旧二監(化管 法)							(-)	(+)	MLA(+)	(-)	EU-RAR, MAK	IARC: 3 EPA: D(1986)・ CBD(1996) EU: 3		化管法 由来		
76	ナフタレン	難分解性	2	3				2					0.037	旧二監(化管 法)												IARC: 2B EPA: C(1986)・ CBD(1996) EU: 3 NTP: R		化管法 由来		
80	1, 4-ジオキサン	難分解性	2					2																		産衛学会: 2B IARC: 2B EPA: L(2005) EU: 3 NTP: R		化管法 由来		
81	ホルホルン	難分解性	2	3			2						0.0085	旧二監(化管 法)												化管法変異原性 クラスI	IARC: 3		化管法 由来	
82	ε-カプロラクタム	良分解性	2				2	外																	化管法変異原性 クラスI	IARC: 4		化管法 由来		
84	ビス(2-スルフィドピリジン-1-オラト)銅	難分解性	2	2			外		2.5	6		600	0.0041									(-)	(-)							
87	4, 4'-イソプロピリデンジフェノールと1-クロロ-2, 3- エポキシプロパンの重縮合物 (別名ビスフェノールA型エポキシ樹脂) (濃状のものに限る。)	難分解性	2				2 ^{III}																			化管法変異原性 クラスI	IARC: 3		化管法 由来	
90	メタノール	良分解性	2	2			外		2		10	1000	0.002	HPV							(-)	(-)	MLA mitotiore combinati onassay inAspergil lus(+), MLA, CTA, DNA損傷 修復試 験、酵母 試験(-)	(-)	cytogenic assays, ショウジョ ウバ工伴 性致死試 験(-)	HPV				
91	ジエタノールアミン	良分解性	2	2			外	2	0.4	2		200	0.002	HPV							(-)	(-)	哺乳類細胞 突然変異 試験(-)	(-)		HPV	ACGIH: A3 IARC: 2B			
92	過酢酸	良分解性	2	2			外		0.75	2		200	0.0038	HPV							(-)	細胞毒性の濃 度でのみ(+)		(-)	UDS陰性	HPV				
93	無水酢酸	良分解性	2	2			外		0.56	2		200	0.0028	HPV							(-)			(-)		HPV				
94	アクリル酸	良分解性	3	3			外		4.5	2		200	0.023	HPV							(-)	(+)	HPRT(-), MLA(+)	(-)		HPV	IARC: 3			
95	クロロ酢酸ナトリウム	良分解性	2	2					15	2	10	10	20000	0.00075																
97	ヒドロキシルアミン	難分解性 (デフォルト)	2	2				2																			EU: 3			

優先評価 化学物質 の番号	名 称	分解性	有害性 クラス	有害性項目ごとの有害性クラス				一般毒性					生殖発生毒性					変異原性					発がん性			備考			
				一般毒性	生殖発生 毒性	変異原性	発がん性	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験期間 によるUF (90日未満6 1年未満2)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	影響の重大性 に係るUF (エキスポー ジャツジ)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験の質 によるUF (1世代 試験は10)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	①Ames試験 (復帰突然 変異試験)	②in vitro ほ乳類染色体 異常試験	③その他 のin vitro 試験	④in vivo 小核試験	⑤その他 のin vivo 試験		備考	発がん性 分類	備考
99	N, N-ジメチルプロパベン-1, 3-ジイルジアミン	難分解性 (デフォルト)	3	3		外		50	6			600	0.083	SIDS							(-)		(-)		SIDS				
102	プロパベン-2-オール (イソプロピルアルコール)	良分解性	4	4		外		33.2	2			200	0.17	ACGIH							(-)		Hprt(-)	(-)	染色体 (+)	MOE, FSC, NTP, EHC, SIDS, ACGIH, Patty, PRED SIDS, FSCで陰性 と結論	ACGIH:A4 IARC:3		
103	1-オクタノール	良分解性	2			2																			化管法変異原性 クラス1			化管法 由来	
105	エチレングリコール	良分解性	3	3		外		1.08	2			200	0.0054	Patty							(-)	(-)	MLA(-)	(-)	DLRL(-)	SIDS, Patty, NTP	ACGIH:A4		
106	プロパベン-1, 2-ジオール	良分解性	3	3		外		46	1	10		1000	0.046	PRED							(-)	(±)	酵母(+), 小核(-)	(-)	Drosophil a (-), マ ウス慢性 致死(-)	SIDS, JECCA, NTP, PRED, Patty			
107	2-アミノエタノール	良分解性	2	2		外		8.91	6	10		6000	0.0015	環境省:化学 物質の環境リ スク評価							(-)	(-)	遺伝子変 換(-), SCE(-), 形質転換 (-)	(-)		NITE,環境省, DFG, Patty, NTP			
108	トリエタノールアミン	難分解性	2	2		外		2.65	6	1		600	0.0044	SIDS							(-)	(-)		(-)	DLRL(-)	SIDS, Patty, NTP, Det	IARC:3		
109	2-ブトキシエタノール	良分解性	2	2		外	2	8.891	2	10		2000	0.0044	環境省:化学 物質の環境リ スク評価							(±)	(-)	UDS(±), SCE(±), ほ乳類細胞 変異原 (-)	(±)	DNA付加 体(-), Fvb/n TG マウス(-)	SIDS, IPCS, IRIS, ACGIH, NTP, CEPA, NICNAS 一部に陽性だが、 大勢は陰性。	IARC:3 EPA(2005):NL ACGIH:A3		
110	2-(2-エトキシエトキシ)エタノール	良分解性 (類推審 議)	3	3		外		11.93	6	1		600	0.02	Patty's Toxicology (5th ed.)							(-) (±)		(-)		SIDS, NTP, JECCA, Patty 一部ambiguousは あるが、大勢は陰 性				
111	イソブチルアルデヒド	良分解性	2			2																			化管法変異原性 クラス1			化管法 由来	
112	グリオキサール	良分解性	2			2																			化管法変異原性 クラス1			化管法 由来	
114	アセトン	良分解性	4	4		外		100	2	1		200	0.5	ATSDR							(-)	(-) 一部(+)	MLA(-)	(-)	ATSDR, SIDS, IRIS, EHC, ACGIH 一部OA(+)+だが大 勢は(-)+かつvivo小 核(-)	ACGIH:A4 EPA(1999):1			
115	メチルエチルケトン	良分解性 (類推審 議)	4	4		外		67.7	6	1		600	0.11								(-)	(-)	MLA(-), UDS(-), 形態変換 (-), 酵母 (+)	(-)	SIDS, ECETO, C, EHC, ATSDR	EPA(1999):1			
116	メチルイソブチルケトン	良分解性	2	外		外	2	19.9	2	1		200	0.099	ACGIH, DFG							(-)		MLA(±)	(-)	ACGIH, Patty, EHC, MOE, DFG, ECETO	IARC:2B EPA(1999):1 ACGIH:A3			
117	ギ酸	良分解性	3	3		外		4.06	2	1		200	0.02	DFG							(±)	(±)			Drosophil a SLRL(+)	SIDS, JECCA, NTP, Patty, DFG SIDSでは、vivoの 陽性はph による 影響としている。 Patty では Ames(+)+について はphの影響として いる			
118	2-ブトキシエチル=アセタート	難分解性 (デフォルト)	2				2																			ACGIH:A3			
119	クロロ酢酸	良分解性	2	3		2							0.008	旧二重(化管 法)												化管法変異原性 クラス1			化管法 由来
122	硫酸ジメチル	良分解性 (類推審 議)	2			2	2														(+)	(+)			慢性致死 (+), Drosophil a SLRL(+), 染色体異 常(+), マ ウスス ボット(+)	IPCS, ECBリスク, SIDS, DFG	IARC:2A EPA(1986):B2 NTP-R ACGIH:A3 産衛学会:2A EU:2		
124	1-ブタノール	良分解性 (類推審 議)	2	2		外		0.0119	2	1		200	0.00006	IPCS							(-)		SCE(±)	(-)	SIDS, IPCS, ACGIH, patty, NTP	EPA(1986):D			

優先評価 化学物質 の番号	名 称	分解性	有害性 クラス	有害性項目ごとの有害性クラス				一般毒性						生殖発生毒性						変異原性						発がん性		備考	
				一般毒性	生殖発生 毒性	変異原性	発がん性	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験期間 によるUF (90日未満6 1年未満2)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	影響の重大性 (エキスパート ジャッジ)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験の質 によるUF (1世代 試験は10)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	①Ames試験 (復帰突然 変異試験)	②in vitro ほ乳類染色体 異常試験	③その他 のin vitro 試験	④in vivo 小核試験	⑤その他 のin vivo 試験	備考	発がん性 分類		備考
125	キシレン	良分解性	4	4		外		81	6	1		600	0.14							(-)	(-)		(-)		EHC, NTP, ECETOC	IARC:3 ACQIH:A4 EPA(1999): I			
126	クメン	良分解性	2				2																			IARC:2B EPA(1986): D CBD(1996)			
131	シクロヘキサノン	良分解性	4	4		4	2	50.4	6	1		600	0.084	SIDS						(-)	(+)		染色体異常 (+), Drosophil e SLRL(-), 慢性致 死(-)	SIDS, ACGIH, NTO, DFG	IARC:3 ACQIH:A3				
132	3, 5, 5-トリメチルシクロヘキサ-2-エン-1-オン	難分解性	2				2																		EPA(1986): C ACQIH:A3 EU:3				
135	テトラヒドロフラン	良分解性	2				2																		EPA(2005): S ACQIH:A3				
136	N-メチル-2-ピロリドン	良分解性		3		外		13.3	6	1		600	0.022	SIDS						(-)		MLA(-), MN(-)	(-)	マウス優 性致死(-)					
140	アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム(アルキルは炭素 数が10から14までの直鎖アルカンの基に限る。)	難分解性 (デフォルト)	4	4				40	2			200	0.2	PRED						(-)				NTP, PRED PREDにvivo, vitro で変異原なしとの 記載。The toxicological data show that alkylbenzene sulfonates were not genotoxic in vitro or in vivo.)					
143	炭化ケイ素	難分解性 (デフォルト)	2				2																		ACQIH A2				
147	二塩化酸化ジルコニウム	難分解性	2			2																		化管法変異原性 クラス1					
149	3-クロロプロペン(別名塩化アリル)	良分解性	2	3			2						0.013	旧二塩(化管 法)											IARC 3 EPA C(1986) EU 3				
150	2-イソプロキシエタノール	難分解性	2	2	4	外		15	6	10		6000	0.0025	厚労省(既存 点検)	150	10		1000	0.15	厚労省(既存 点検)	(-)	(-)			厚労省(既存点 検)				
152	2, 2', 2' - ニトリロ三酢酸のナトリウム塩	難分解性 (デフォルト)	2				2																		IARC 2B				
153	N-[3-(ジメチルアミノ)プロピル]ステアラミド	難分解性 (デフォルト)	3	3	3	外		50	6	10		6000	0.0083	厚労省(既存 点検)	50	10		1000	0.05	厚労省(既存 点検)	(-)	軽微(+)			厚労省(既存点 検)				
156	クレゾール	良分解性	2		2	外									30	10	10	10000	0.003	NITE初期リス ク(m-体)	(-)	(+)	SCE(+) UDS(-)	(-)	SLDL(-), DL(-) SCE(-)	NITE初期リス ク	ACQIH A4		
161	アクリル酸重合物のナトリウム塩	難分解性 (デフォルト)	3	3		外		0.05mg/m3 (MAK value)					0.02	DFG										DFG					

優先評価 化学物質 の番号	名 称	分解性	有害性 クラス	有害性項目ごとの有害性クラス				一般毒性							生殖発生毒性						変異原性						発がん性		備考
				一般毒性	生殖発生 毒性	変異原性	発がん性	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験期間 によるUF (90日未満6 1年未満2)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	影響の重大性 に係るUF (エキスパート ジャッジ)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験の質 によるUF (1世代 試験は10)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	①Ames試験 (復帰突然 変異試験)	②in vitro ほ乳類染色体 異常試験	③その他 のin vitro 試験	④in vivo 小核試験	⑤その他 のin vivo 試験	備考	発がん性 分類	備考	
162	コールタール	難分解性 (デフォルト)	1				1																				IARC 1 EPA A(1986) NTP K 産衛 1 EU 1		
163	コールタールピッチ	難分解性 (デフォルト)	1				1																				IARC 1 ACQGH A1 産衛 1 EU 2		
173	N, N-ビス(2-ヒドロキシエチル)アルカンアミド(G=8, 10, 12, 14, 16, 18, 直鎖型)、(Z)-N, N-ビス(2-ヒドロキシエチル)オクタデカ-9-エンアミド又は(9Z, 12Z)-N, N-ビス(2-ヒドロキシエチル)オクタデカ-9, 12-ジエンアミド	難分解性 (デフォルト)	2				2																				IARC 2B		
177	水酸化ニッケル(Ⅱ)	難分解性 (デフォルト)	1				1																				IARC 1	EU-1a	

※1 事業者からの有害性情報の提出により、変異原性については実質的に懸念がないことが示されている。
※2 下線部については、事業者からの情報提供等を踏まえ、新たな有害性情報を用いて評価1を実施している。